（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和６年３月 31 日

県立　麻生高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和　年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月８日実施）	総合評価（３月 28 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①組織的な授業改善に取り組み、生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導と家庭学習習慣の確立を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成する。 ②国際的視野の涵養と豊かな語学力・コミュニケーション力等を育成し、国際社会に貢献する高い志を持ったグローバル人材を育成する。	①新学習指導要領の年次進行に伴い、「主体的・対話的で深い学び」を達成するため、研修等を実施し、指導と評価の一体化の視点からの授業改善を図る。 ②本校の教育目標のひとつである国際社会に貢献する人材育成を目指して、国際交流事業をはじめとしたさまざまな教育活動を展開する。	①教育課程の質的改善を図り、生徒の自己表現活動を取り入れた授業改善研修を実施する。 ①授業改善のための「授業を見に行こう週間」の活用や、生徒による授業評価の結果を分析し、改善に活かす。 ②感染症対策を十分に講じ、留学生受入れ等の国際交流についてさらに推進する。	①各授業で「１人１台端末」を活用した授業展開をすることができたか。 ①全教職員が他の授業を参観し、生徒による授業評価の「授業のあり方」「生徒自身の授業に対する取組状況」の数値が前年度より高められたか。 ②留学生受入れ等の国際教育への取組を行うことができたか。	①全教科においてclassroom等を利活用した授業展開をすることができたが、全科目での利活用までは至っていない。生徒による授業評価の「授業の在り方」「生徒自身の授業に対する取り組み状況」は前年度と同様で概ね3.3～3.4であった。 ②留学生を２名受入れるとともに、国際理解講演会により、国際教育への取組を行った。	①新学習指導要領への移行により、ＩＣＴの利活用は主体的・対話的で深い学びをより一層進めるために必要な取組であるとともに、家庭学習の充実にもつなげ、主体的に学ぶ姿勢の育成を図る取組を校内に広める必要がある。 ②国際理解教育は、国際社会に貢献する人材を育成するために、引き続き国際事情を鑑みながら展開していきたい。	①新学習指導要領への移行をふまえて、今後とも主体的な学びについて取り組んでいただきたい。 ②留学生受入れによる効果を検証していきながら、活発な交流をお願いしたい。地域の人材、団体も積極的に活用していただきたい。	①「１人１台端末」の導入に伴うＩＣＴの利活用について、「授業を見に行こう週間」や各種研修を通じて、昨年度より内容を充実させることができた。 ①生徒による授業評価については、数値的に昨年度と横ばいの項目が多く、安定はしているが、改善の成果はやや弱い面がある。 ②新型コロナの５類移行に伴い、校外機関との連携ができるようになってきた。留学生の受入れ、在日外国人学生との交流等、徐々に成果をあげてきた。一方で、組織的な体制は不十分で、学校全体としての取組について弱い面がある。次年度以降、具体的な目標を立案し、それに沿った学習活動に取り組む必要がある。	①「授業を見に行こう週間」や、各種研修を通じて、「主体的・対話的な深い学び」を目標とした、教育活動の推進に積極的に取り組む。 ②国際理解教育を推進するため、留学生の受入れ等を含めた国際交流、校外の留学生団体との交流を積極的に取り入れ、広い視野に立つ人材の育成を目指す。
2	生徒指導・ 支援	①学校生活、特別活動を通して豊かな人間性と社会性・規律意識を備えた生徒を育成する。 ②自主・創造の意欲と協調・協働の精神を持ち、望ましい人間関係を構築できる生徒を育成する。	①学校行事、部活動等を通じて、生徒の主体的な活動を保障するとともに、豊かな人間性の涵養を図る。 ②多様な価値観を認め合う社会の中で生きていくために必要な感性を育てる。 ②ＳＣ、ＳＳＷ、外部機関等との連携を密接に図り、生徒が安心して学校生活を送れる支援体制を構築する。	①新型コロナウィルス感染所防止対策を十分に行い、生徒による新しい生活様式に則した学校行事の運営を目指す。 ①部活動の活性化を目指し、学習との両立を図りながら年間計画を立てる。 ②生徒に規範意識を確立させ、全職員で遅 刻防止・挨拶・身だしなみ、情報モラル等の指導に当たり、品位ある態度と社会性を身につけるよう指導する。 ②ＳＣ、ＳＳＷを効果的に活用し、教育相談体制の構築・外部との連携等により、効果的な生徒支援に当たる。	①学校行事において生徒の自主的な意見を取り入れた運営ができたか。 ①生徒の部活動加入率が向上したか。 ②朝の立ち番指導や定期試験中の服装・頭髪チェックを実施することにより、生徒が自主的にルールを守ることができたか。 ②生徒がＳＣ、ＳＳＷを積極的に活用することができたか。また、外部機関等との連携ができたか。	①新型コロナウイルス感染症の拡大防止に工夫を凝らし、生徒の委員会が学校行事の企画・運営に関する検討を活発に行えるようにして、生徒の主体的な意見を取り入れた学校行事の運営を推進することができた。 ①生徒の部活動加入率が向上した。 ②立ち番指導や服装チェックなどでおおむねルールを守ることができた。その反面、遅刻をして登校する生徒が年々多くなってきている。 ②ＳＣ、ＳＳＷの活用については、毎週相談日の設定ができるように生徒に周知しながら、積極的に活用できた。	①生徒会本部役員や生徒の委員会が、学校行事の企画・運営の細部まで関わり、生徒が主体的に活動できるように、生徒会指導グループが中心となって関係各機関との連絡を密にしていく必要がある。 ②ピアス、化粧、遅刻など学校のルールを守れない一部の生徒に対しては粘り強く、継続した指導が必要である。生徒個々に対して様々なアプローチをしながら指導の仕方を工夫していく。 ②毎週来校する体制になったので、もっと有効活用ができるようにしたい。サポートドックをうまく活用したい。	①地元としても生徒の活動に期待するところが大きい。部活動の生徒による、小中学校や地域の行事への参加をこれからもお願いしたい。 ①生徒の活動の様子をもっと発信してほしい。 ①時間にルーズな生徒が増えてきているのだろうか。 ①自転車通学のマナーについて、「ながらスマホ」等危険運転については指導を進めていってほしい。地域、家庭としてももっと協力していきたい。 ②ＳＣ、ＳＳＷを有効に活用して、生徒の支援をお願いしたい。	①新型コロナウィルスの５類移行に伴い、通常の学校生活が可能になってきた。数年間のブランクを経ての再構築となるため、試行錯誤する面があったが、新しい発想を取り入れた行事の企画運営を行うことができた。 ①部活動については、人間性の涵養、社会性の育成等に資するものであり、加入率の向上、活動の自主的な運営に向けて、取り組む必要がある。 ①自転車事故が多発傾向であることをふまえ、交通ルールの順守に対して、ＰＴＡ等とも協力して、生徒に対する啓発を行う必要がある。 ②課題を抱える生徒に対して、的確な支援ができるよう、今年度の実績をふまえて、さらにＳＣ、ＳＳＷ等との連携を図る取組を進めていくことが求められている。	①次年度も「生徒が主体的に活動する」生徒の特別活動を支援する体制を作る。生徒の自己肯定感を育成し、自律的、主体的に活動に取り組む意識を高める。 ①部活動の活性化に継続的に取り組み、加入率の向上、主体的な活動の支援を行う。 ②基本的な生活習慣の確立に向けて、ＰＴＡ、保護者等と連携して、意識の啓発を図る。 ②ＳＣ、ＳＳＷ、外部機関等との連携を図るとともに、「サポートドック」、ケース会議を活用した情報共有を有機的に行う。 ②教職員のカウンセリングマインドを育成するために、研修等を通じた実践的な取組を行う。
3	進路指導・ 支援	①高い志に根ざした第一希望の進路実現に向けて、３年間を見通した進路指導、個に応じたきめ細かい面接指導などを段階的かつ系統的に実施する。 ②英語検定、「総合的な	①　３年間を通じた体系的な進路支援体制の充実を図り、生徒自身が目的意識をもって自己実現していくキャリア形成に寄与する。	①生徒対象進路説明会を、時期、目的に応じて学年進行の中で、体系的に実施する。 ①保護者対象説明会を、各学年において実施する。 ②英語４技能を利用し	①進路希望調査、担任との面談等を通じて、自己実現に向けての方向性を確認し、キャリア形成に結びつけることができたか。 ②実用英語技能検定準２級の取得率を	①生徒対象進路説明会を、学年進行の中で、体系的に実施した。 ①保護者対象説明会を、各学年において実施し、進路情報を提供した。 ②実用英語技能検定の	①進路説明会などで情報を提供し、担任との面談などを通じて進路に対する働きかけをしているが、３年次になっても定まらない生徒もおり、早めにオープンキャンパスなどに積極的	①１年次からオープンキャンパス等に参加して、早い段階から自分で気づきを得ていくことが重要。 ②数値目標を設定し、達成目標を明示することも必要か。 ②大学受験に向けてどのようなスキルアップを図っているか。	①生徒の自己実現に向けての支援体制はある程度成果を上げてきている。１学年次からさまざまな企画を実施しているが、体系的に支援を構築していく工夫を重ねる必要がある。 ②「総合的な探究の時間」について、教科横断的な内容をふまえて、生徒の総体的な諸能力の育成に向けて、さらに取り組む必要がある。	①大学入試等、進路選択をめぐる状況の変化を的確にとらえ、生徒、保護者等に対して、情報提供を行うとともに、きめ細やかな支援に取り組む。 ①早い段階からキャリア形成に向けて取り組むため、外部の期間（大学等）と連携して、生徒の能力の育成に取り組む。 ②「総合的な探究の時間」について、校

	視点	４年間の目標 （令和　年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月８日実施）	総合評価（３月 28 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		探究の時間」等を活用して、４技能の英語教育の充実、言語能力・コミュニケーション能力・課題解決力等を伸長することで、進路実現につなげる。	①進路情報を的確に提供する機会を設定し、進路実績の質的向上を図る。 ②国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、ステップのひとつとして実用英語検定の準２級取得率の向上を目指す。 ②「総合的な探究の時間」を、教科横断的で主体的な課題探究・解決能力の伸長を図るよう改善する。	た大学受験のシステムを生徒に提示し、実用英語技能検定の取得と進路実現との関連を理解させ、資格取得への動機づけとする。 ②各学年の「総合的な探究の時間」において、生徒一人ひとりが自律的に課題の考察に向けた探究サイクルを形成するよう働きかける。	前年度より向上させることができたか。 ②探究活動の充実を図り、その成果について発表会等を通じて発信することができたか。	取得と進路実現との関連を理解させ、資格取得への動機づけとした。 ②学年ごとにテーマを定め「総合的な探究の時間」において、生徒一人ひとりが自律的に課題の考察に向けた探究サイクルを形成するよう働きかけた。	に参加し、キャリア形成に結び付ける進路選択ができるように働きかけていきたい。 ②「総合的な探究の時間」については、生徒の課題解決能力の育成に向けて、体系的な指導計画を立案するよう、校内での研究体制を作ったが、全体的な動きになるまで至らなかったため、次年度にかけてさらに研究を重ね、取り組む。	②英検合格率の実績についてはについて、徹底して指導して向上を図ってほしい。	②英語検定の合格率が低迷している状況をふまえて、進路に直結する各種検定の受験を促すとともに、学力の定着に向けて、全校で取り組む必要がある。	内に推進グループを立ち上げ、他の先進事例等も参考に、指導内容の充実を図る。 ②各種検定の合格率向上のため、教科活動における指導目標を明示し、生徒の達成満足度を向上させる。
4	地域等との協働	①ＰＴＡ・同窓会・地域との連携・交流を深め、地域に開かれた学校作りを推進する。 ②「国際社会で貢献する高い志を持つグローバル人材の育成」をスローガンに国際教育、英語教育、芸術教育を県民に積極的に発信し、意欲ある生徒の獲得を目指す。	①小中学校や地域等との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。学校運営協議会等を通じて、外部人材の活用を図り、教育力の向上につなげる。 ②ＨＰ等を通じて生徒の活動の実績や学校の取組について積極的に情報を発信し、本校の魅力と特色についてアピールする。アドミッションポリシーの浸透を図り、目指すべき生徒像をもとに、教育活動の充実を図る。	①学校運営協議会等を通じて、開かれた学校づくりを目指して各方面からの助言を受け、地域や近隣小中学校との連携を図る。 ②学校説明会や学校ＨＰ等を活用して、地域や受検生、県民に対し、本校の特色と魅力について効果的に発信する。特に説明会では、司会や説明等を生徒が行い、生徒主体となる説明会になるようにする。	①地域、校外機関等の外部人材の教育力を活用する取組を行うことができたか。 ②興味関心を持たせるような見やすい学校ＨＰになっていたか。また、更新頻度を高め、分かりやすい学校説明会の実施や動画配信により本校の特色や魅力を発信し、志願者数の増加を図ることができたか。	①コロナ禍で制約の多かったさまざまな取組が可能になってきたため、近隣の行事に積極的に参加し、実績を重ねることができた。 ①外部人材の活用という点では、学校内の取組を深めていきたい。 ②学校説明会や学校ＨＰで校内の様子や行事等をアップし、多くの方々に学校の魅力を発信した。今年は授業や校内の様子を動画で発信した。 学校説明会では、生徒が表舞台の司会や説明等を行い、各行事を円滑に進行することができた。	①コロナ禍以前に戻すだけではなく、地域の特性に合わせて、生徒の主体的な活動を促す取組を一層進めていく必要がある。 ①学校運営協議会の部会における取組をより活発化させ、地域との協働、連携を図る必要がある。 ②本校において安心・安全・落ち着いた環境で勉強や部活動に取り組むことのできる魅力をさらに発信できるようにする。 志願者数を増やすために、今後も学校ＨＰに写真や動画を掲載し、更新頻度を増やすよう努める。	①安心して通わせる学校として評価している。 ①さまざまな場面で、地域との協力体制を作っていきたい。 ②学校の教育活動をより積極的に発信してほしい。説明会等で生徒が前面に出て活躍する姿は好ましい印象を持つ。	①小中学校、地域との行事等を通じた交流が、ようやく新型コロナウィルス感染前の水準まで戻ってきた。今後も、交流活動を続けていくための学校側の取組体制を構築していくことが求められる。 ②ＨＰの内容をタイムリーに更新し、学校の状況を発信するように努めた。また、学校説明会、オープンスクール等の企画内容を一新し、本校の魅力をアピールするように努めた。	①小中学校の行事、教育活動、地域の行事等に、本校生徒が関わる機会を増やし、共助の関係の下、生徒の諸能力の育成を図る。 ②ＨＰの内容をさらに充実させ、本校の特色、魅力を外部に発信できるようにする。 ②生徒が主体的に学校説明会等の運営にかかわる中で、メディア等を通じて、本校生徒の活動をアピールしていく。
5	学校管理 学校運営	①教育公務員としての高い使命感と倫理観を持ち、不祥事防止に取り組むとともに、協働とライフワークバランスを意識して職務に取り組み、働き方改革を推進する。 ②保護者・地域・県民からの信頼と期待に応える安心・安全な学校づくりを進める。	①不祥事ゼロプログラムに基づいた不祥事防止研修を適宜実施するとともに、協働意識の醸成に向けた体制作りに取り組む。業務内容の精選、可視化を図り、ワークライフバランスを意識した業務の効率化を図る取組を推進する。 ②教職員の防災意識を高め、地域と連携した実践的な防災対策を進める。	①年間を通じて、計画的な研修を実施することにより、不祥事防止に取り組む。 ①業務の環境整備を進め、業務内容の精選や可視化を図る。 ②大規模災害の発生に備え、教職員の防災意識を高めるとともに、地域、自治体と連携した防災体制の構築に取り組む。	①不祥事防止研修を実施し、リスク回避を図り、事故防止に努めることができたか。 ①風通しの良い職場づくりをすることにより、業務に対する可視化、効率化を図ることができたか。 ②学校全体として、防災意識を高めることができたか。 ②地域、自治体と連携した防災体制の構築に取り組むことができたか。	①不祥事防止研修を職員会議と同時に定期的に実施し、事故防止に努めることができた。 ②コロナ禍で実施を見合わせていた防災・避難訓練を再開し、生徒・職員の防災意識を高めることができた。	①不祥事防止研修を定期的に実施し、事故防止についての意識啓発を図った。昨今の社会情勢を鑑み、時機を見て、今後とも継続的に取り組む必要がある ②地域、自治体と連携した防災体制の構築については、取り組むことができず、課題が残った。	②地域防災の観点から、自治体、地元と連携した防災訓練の実施等に取り組むことが望ましい。	①欠席連絡等の保護者等との情報のやり取りについてＩＣＴの利活用を積極的に推進し、正確性、迅速性の向上を図った。 ①組織的な学校運営と校務の効率化を図り、「働き方改革」を推進し、長時間勤務の是正、業務負担の軽減にさらに取り組む必要がある。 ②地域と連携した防災体制を推進し、発生が予測される「南海トラフ地震」「首都直下型地震」等の災害に備えて、対策を強化していく。	①校務のＩＣＴ化についてある程度の水準に達してきたことをふまえ、さらにバージョンアップを図り、業務整理に結びつけていく。 ②行政機関、地域の自治会などと連携して防災用品の備蓄、防災体制の構築に向けて、連携を強化する。